

日本の高等学校における韓国語教育に望むこと

浜之上幸

神田外語大学アジア言語学科韓国語専攻

現在からさかのぼって 10 年ほど前までは、高校生が韓国語を学ぶことはほとんどなかったと記憶している。しかし、最近筆者の勤務校の韓国語学科（2012 年度からはアジア言語学科韓国語専攻）に入学してくる 1 年生の中に、高等学校で韓国語を学習した学生を少なからず見かけるようになった。今年度に至っては、会話の授業の履修免除者（希望者は 4 名）が 2 名いたほどである。

この高等学校における韓国語既修者の増加の原因には様々なものが考えられるが、主に：

- 1) K-POP や韓流ドラマの流行
- 2) 易しい入門書や市民講座が増加した
- 3) 韓国語を履修できる高等学校がかなり増加した

があげられる。

このうち、3) について具体的に見れば、1986 年度以来、文部科学省が隔年で実施している「高等学校等における国際交流等の状況について」という調査において、韓国語の授業を開設している高等学校が、1999 年度には 131 校であったのが、2015 年度には 296 校へと増加し、高等学校における韓国語の履修者数は、1999 年度には 3,972 名であったのが、2015 年度には 11,158 名へと増加している。

彼ら高校生が個人的に学習したのであれば、その到達度について我々とやかく言うものではないが、高等学校から大学に続く公教育の中で、韓国語学習の円滑な受け渡しが行われるためには、高等学校における韓国語学習の内容と到達度について、大学側から望まれることを明らかにしておく必要があると思われる。

韓国語の運用能力には数多くの要素があろうが、ここでは以下の側面を取り上げることとする：

1. 韓国語を積極的に話したり聞いたりすること
2. 韓国語の自然な発音ができること
3. 韓国語の用言の語形づくりができること
4. 韓国語の文章を読んだり書いたりできること

結論から短く申しあげれば、我々が高等学校での韓国語教育に率直に望むのは、上の1と2のレベルである。1は、外国語としての韓国語にまずは物怖じしないで接する態度を身につけることであり、2は、日本語と違いが大きい韓国語の発音を若いうちからクセなく身につけることである。

高等学校における韓国語の履修時間の制限や、高校生という年齢を考えた場合、韓国語に情緒的、感覚的な面での親近感を持つことが最も必要であろう。市販されている『新・好きやねんハングルⅠ』という高校生向けの教科書の構成を見ても、現実的な目標は、このレベルであろう。

一方、上にあげた3と4は大学で行うべきである。3においては、ヴォイス、テンス、アスペクト、ムード、尊敬法、待遇法といった様々な文法範疇についての理解と、複雑な語形変化の処理能力が必要とされ、4では論理的、理知的な文章に接するだけの知的水準が備わっていないとてはならない。このようなことを、時間が限られた高等学校での韓国語教育に要求するのは、現状を鑑みるに酷である。

つまり、高等学校においては、1と2というレベルで韓国語に情緒的に親しんでおき、大学においては3と4というレベルで知的な作業を行うという、役割分担を行うのである。これはあくまでも学生の学習段階に応じた相互補完的な対応関係なのであり、どちらのレベルが優れているかという敵対的なものではない。

現状における苦言を一つ呈しておけば、高等学校で韓国語を学んだ学生の中には、1や2のレベルで自己完結してしまい、大学における3と4のレベルに適應できない者がいる。これはある意味、悲劇である。自己のすばらしい長所と克服すべき問題点を客観化できるような指導が高等学校で行われることを望んでやまない。

さて、本稿において特に論じたいのは、2のレベルである。「韓国語の自然な発音」と一口に言っても、それを網羅的に習得するのは高校生にとって至難の業である。その中から2017年度前期の神田外語大学韓国語専攻1年生の中間試験（付録参照）を例にとってみると、そこで取り扱われた発

音に関する事項は以下の 12 項目である：

- 1) 19 の初声子音字の発音・・・平音：激音：濃音の区別
- 2) 10 の基本母音字の発音・・・「ㅏ：ㅑ」, 「ㅓ：ㅕ」の区別
- 3) 11 の合成母音字の発音・・・「ㅗ：ㅛ」の取り扱い，合成母音字の正しい字形，ㅛの発音
- 4) 終声字（パッチム）の発音・・・7 終声の発音（終声規則），二重終声字の発音
- 5) 連音化・・・손은（手は）
- 6) 平音の濃音化・・・합격〈合格〉
- 7) 口音の鼻音化・・・책만（本だけ）
- 8) 平音の激音化・・・좋다（よい），입학〈入学〉
- 9) 流音のㄴ化・・・정리〈整理〉
- 10) ㄴの流音化・・・연락〈連絡〉
- 11) 用言の子音語幹における語尾，接尾辞の濃音化・・・안다（抱く）
- 12) [n]挿入規則（リエーゾン）・・・십육만〈十六万〉

この 12 の項目が，高等学校においてマスターされていれば，韓国語専攻の 1 学期の中間試験への橋渡しがうまくなされるものと考えられる。

さて，各々の項目について，詳しく見ていくことにする。

1) については，平音，激音，濃音の聞き取りができるかを問うものである。この中間試験の段階では，あくまでも聞き取り能力を問うことにしており，発話能力については不問にしている。激音はともかく，濃音の発声に関しては，正確に発声することができるのに，かなりの時間が必要であるのは言うまでもなく，中間試験の段階で濃音の発声能力の如何を問うことは無理があると考えられる。

ここで注意しておきたいのは，濃音の発声法を教えるにあたって，“ティッシュペーパーなどの薄い紙を口の前に置き，それが揺れないように発音する”といった指導法は，発声法を教えているのではなく，発声の結果を目で確認しているにすぎないということである。また，“促音の「っ」を前に付けて発音する”という指導法も，濃音本来の発声法である喉を緊張させることとは無関係な指導法であり，正しい濃音の発声に結びつかない。

なお、聞き取り能力を教えるにあたっては、いわゆる「“へ”の字の法則」を学生に提示し、単語の高低アクセントによる語頭の“入以外の平音：濃音，激音”といった子音の対立の聞き取り能力をつけるように指導している。単語の高低アクセントに関しては、趙義成(2007：383)を参照のこと。

2) の基本母音字 10 個の発音に関しては、日本語の「お」に似た音である「ㄣ：ㅛ」の対立と、日本語の「う」に似た音である「ㅓ：ㅡ」の対立の聞き取り能力を問うことが重要である。この 2 つの対立では、それぞれ前者が円唇性を持った母音であるが、韓国語においては円唇性が弁別的特徴になっているのに対し、日本語では円唇性が非弁別的特徴であるという点を、学習者に意識させることが重要である。

3) の合成母音字 11 個の発音に関しては、まず、「ㅏ：ㅑ」という文字の違いを発音の違いとしてどの程度厳しく教えるかが問題になる。周知のごとく、かなりの老年層を除いては、「ㅏ：ㅑ」という文字の違いは発音の違いに反映されていない。しかしながら、文字の違いは厳然として存在するのであるから、入門の段階でこの文字の対立を粗忽に扱うべきではないと思われる。よって、神田外語大学の 1 学期中間試験においては、問題Ⅳの 10 の배 (腹，舟，梨) と 12 の게 (蟹) の発音の違いや、11 の얘기 (話) と 13 の예약 (予約) の発音の違いを聞き取りさせる際に、それぞれの対立の前者を発音する際に“指 2 本”を口の横に添えて発音し、後者を発音する際に“指 1 本”を口の横に添えて発音するという方策をとっている。

次に問題になるのは合成母音字の正しい字形を書かせることである。これについては、菅野他(2007：30)にある以下の表を利用して教えている：

【表 1】

陽母音	① ㅏ	② ㅑ	中性母音	⑤ ㅣ
陰母音	③ ㅓ	④ ㅕ		

この表で、陽母音は陽母音同士か中性母音と組み合わせたり、陰母音は陰母音同士か中性母音と組み合わせるという原則を立てて、ㅏ，ㅑ，ㅓ以外の合成母音字ができるとする：

① + ②	・ ・ ・ ・ ・	ㅊ + ㅌ → ㅊ
① + ⑤	・ ・ ・ ・ ・	ㅊ + ㅣ → ㅊ
② + ⑤	・ ・ ・ ・ ・	ㅌ + ㅣ → ㅊ
① + ② + ⑤	・ ・ ・ ・ ・	ㅊ + ㅌ + ㅣ → ㅊ
③ + ④	・ ・ ・ ・ ・	ㅌ + ㅌ → ㅌ
③ + ⑤	・ ・ ・ ・ ・	ㅌ + ㅣ → ㅌ
④ + ⑤	・ ・ ・ ・ ・	ㅌ + ㅣ → ㅌ
③ + ④ + ⑤	・ ・ ・ ・ ・	ㅌ + ㅌ + ㅣ → ㅌ

次に問題になるのは, ㅌの発音である。この問題に関しては,

1. 語頭でㅌの時だけ[wi]と発音される。
2. 助詞「~の」の-ㅌは, 普通[e]と発音される。
3. 上の 1 と 2 以外のㅌは, [i]と発音される。

と教えている。上の 2 の標準発音は[wi]であるわけだが, 一般的な発話においては[e]と発音されているので, [e]を教えることにしている。

かくして, 例えば, 의의의(意義の)の発音は, [의이에](あるいは[의의에])となるわけである。

最後に問題となるのはㅌの発音だが, これは, 예, つまり, 初声に子音が来ないときには[je]と発音されるが, 初声に子音が来るときは[e]と発音される。例えば, 계산〈計算〉は[계산]と発音される。

4) の終声字 (パッチム) の発音については, いわゆる“終声規則”, つまり音節末の子音の発音が 7 つしかない, ということを, 以下のような表で示して教えている:

【表 2】

	口音	鼻音	流音
唇音	ㅍ [p]	ㅁ [m]	
歯音	ㅌ [t]	ㄴ [n]	ㄹ [l]
軟口蓋音	ㄱ [k]	ㅇ [ŋ]	

このような 2 次元の表で教えることは、後に、口音の鼻音化, ㄴ の ㄷ 化, ㄷ の ㄴ 化を教える際にも, 音の変化の相互関係が左右に表示されて分かりやすいので, 有用であると思われる。

次に, 初声の位置に用いられる子音字 19 個のうち, 終声の位置に現れる子音字は, ㅁ, ㅂ, ㅅを除いた 16 個であるので, これらの 16 個の子音字が, 終声規則により 7 個の音に合流してしまう現象に関して述べる。この現象に関して, 浜之上(2012:58)の表を示すと以下の通りになる:

【表 3】

16 子音字	7 終声	単語の例
ㅁ, ㅂ	[ㅁ]	입口, 잎[입]葉
ㄷ, ㄱ ㅈ, ㅊ ㅅ, ㅆ (ㅎ)	[ㄷ]	곧すぐに, 받[받]畑 짓다[진따]ほえる, 빛[빔]光 맛[맛]味, 있다[읷따]いる, ある 놓다[놉타/노타]置く
ㅌ, ㅋ, ㆁ	[ㅌ]	책<冊>本, 부엌[부억]台所, 밖[박]外
ㅇ	[ㅇ]	섬島
ㄴ	[ㄴ]	선見合い
ㅇ	[ㅇ]	성<姓>
ㄹ	[ㄹ]	설正月

この表でわかることは, 鼻音と流音の終声字は終声字音と“1 対 1 対応”しているが, それ以外の文字と発音は“多対 1 対応”しているということである。

これは一見複雑に見えるが, 文字ㅁ, ㅂが発音[ㅁ]に対応し, 文字ㅌ, ㅋ, ㆁが発音[ㅌ]に対応している一方で, それ以外の文字ㄷ, ㄱ, ㅈ, ㅊ, ㅅ, ㅆ, ㅎは, すべて[ㄷ]に対応しているということがわかる。このことを簡単に覚えようとすれば, “口音で, p, k の系列の文字以外はみな t と発音する”とすればよいであろう。なお, ㅎ終声字の音価をどう扱うかに関しては, 後述する。

次に, 二重終声字(この組み合わせは 11 個ある)の発音に関してであるが, 単独で発音された場合の様相は“終声規則”により以下のようになっている:

a) 後ろの子音字を落として読むもの

ㅁ[ㅁ] ㅂ[ㅂ] ㅅ[ㅅ] ㅈ[ㅈ] ㅊ[ㅈ] ㅋ[ㅈ] ㆁ[ㄴ] ㆁ[ㅈ]

b) 前の子音字を落とすもの

ㄷ[ㅂ] ㄷ[ㅁ] ㄷ[ㅇ] ㄷ[ㅁ]* *밟다 (踏む) 1語のみ

だが、これを丸暗記することは、高校生にとってほぼ不可能であると思われる。

よって、一応の方便を考えれば、“反切表の子音の順番において、早い方のものを読む”という方針を立てることができる。

例えば、ㅁにおいて、ㅁはㅂよりも反切表の順番が早いので[ㅁ]と発音される。また、ㄷにおいて、ㅂはㅈよりも反切表の順番が早いので[ㅂ]と発音される。

この方便における例外は、上にあげた 9 つの組み合わせのうち、ㅁ[ㅁ]、ㄷ[ㅇ]の2つと 밟다 (踏む) 1語である。

5) の連音化に関しては、まずこの現象を、フランス語学における術語である“リエーゾン(liaison)”と呼ぶ入門書があるが、これは間違いである。もし、どうしてもフランス語学における術語を使おうとするのならば、“アンシェヌマン(enchaînement)”と呼ぶべきである。

さて、この連音化に関しては、終声字が初声の位置に移動し発音されるわけであるが、視覚的に、終声字が右上（横書きの場合）のㅇに上がって発音されるということを教えればよいので、学習者はさほど困難さを覚えないと思われる。

英語において、単独では pine[パイン]と apple[アップル]と発音されるものが、合成語になった場合、pineapple[パイナップル]と発音されるということを引き合いにしてもよいであろう。

6) 平音の濃音化は、終声が口音（無声音）である[p], [t], [k]に続く初声の平音が濃音化して発音される現象である。例：책방〈冊房〉（本屋）[책빵]。

これに対し、終声が有声音である鼻音や流音の[m], [n], [ŋ], [l]に続く初声の平音は有声音化して読まれる。例：갈비（カルビ）[kalbi]。

このような濃音化と有声音化の環境の違いについては、日本語において、促音の「っ」のあとでは、有声音（濁音）が来ることがなく、無声音（清音，半濁音）が来るとい現象があるので，高校生にとっては，日本語のように発音していれば，自動的に濃音に近い無声音が出ることになる。

例えば，「一杯」は[いっぱい]と発音され，*[いっぱい]と発音されることはなく，「三杯」は[さんばい]と発音される。ただし，外来語では，「バッグ(bag)」のように促音の後の濁音がありうるが，多くの日本語話者は，「バッグ」を[バック]と清音で発音している。

7) 口音の鼻音化は，6)の平音の濃音化が順行同化であったのに対して，逆行同化であるという点において，学習者にとって習得が困難である。

“鼻音の初声口，ㄣの前で，口音の終声は[ㄷ]→[ロ]，[ㄷ]→[ㄣ]，[ㄱ]→[ㄣ]と変化する”と教えても学習者にはなかなか定着しない。

その理由は，鼻音の終声[ロ]，[ㄣ]，[ㄣ]に似た日本語の「ん」（鼻音性音素/N/）が，様々な環境において[m]，[n]，[ŋ]などのように発音されるという事実による。言い換えれば，日本語において，[m]，[n]，[ŋ]という音声は，音素として区別されるのではなく，鼻音性音素の「ん」（/N/）の異音として存在するのである。よって，日本語話者は，鼻音の終声[ロ]，[ㄣ]，[ㄣ]の区別に対して極めて鈍感にならざるを得ない。

この[ㄷ]→[ロ]，[ㄷ]→[ㄣ]，[ㄱ]→[ㄣ]という発音の変化に関しては，先にあげた【表2】を再掲してみることにする：

	口音	鼻音	流音
唇音	ㄷ [p] →	ロ [m]	
歯音	ㄷ [t] →	ㄣ [n]	ㄣ [l]
軟口蓋音	ㄱ [k] →	ㄣ [ŋ]	

すると，この表において，[ㄷ]→[ロ]，[ㄷ]→[ㄣ]，[ㄱ]→[ㄣ]という口音から鼻音への発音の変化は，表の左から右への移動ということになることで，視覚的にとらえやすくなることがわかる。

ちなみに，このような発音の変化は，英語にも起こる。Good morning!を流暢に発音すれば，[グンモーニング]というような発音になり，[d]が[n]と鼻音化している。さらに，日本語の例で考えれば，接頭辞「ぶっ-

が、「かける」や「なぐる」に接続したとき、前者は「ぶっかける」だが、後者は「ぶんなぐる」となる。後者の場合、[t]が[n]と鼻音化していると考えることができる。

8) 平音の激音化に関しては、ㅁが終声の位置にある場合、初声の位置にある場合を問わず、便法として“基本的には激音化マーカーであり、隣接する平音を激音化する”と教えている。その際、遅い発音と早い発音の両者を、試験では正解としている。

例えば, 입학〈入学〉は[입ㅍㅍ/이ㅍㅍ], 좋다(よい)は[죸타/조타]のように2通りの発音を正解とするのである。

9) 流音のㄴ化(鼻音化)は、語中の初声がㄴであるとき、その前の終声がㄴ, ㄴ以外の終声であれば、その初声のㄴはㄴと発音されるというものである。例えば, 정리〈整理〉は[정ㄴ]と, 심리〈心理〉は[심ㄴ]と発音されるという具合である。

ところが、この流音のㄴ化が起こった場合、その前の初声がㅍ, ㅌ, ㄱである場合には、上の7)で述べた口音の鼻音化も起こってしまう。例えば, 십리〈十里〉→[십ㄴ]→[심ㄴ], 법률〈法律〉→[법ㄴ]→[뵤ㄴ]という具合である。順行同化に引き続き逆行同化が起こっているのである。この発音の変化は二段階で起こるので、高校生にとっては非常にわかりづらいものである。

【表2】によってこの様相を示せば：

	口音	鼻音	流音
唇音	ㅍ [p] →	ㅍ [m]	
齒音	ㅌ [t] →	ㄴ [n] ←	ㄴ [l]
軟口蓋音	ㄱ [k] →	ㅇ [ŋ]	

10) ㄴの流音化(ㄴ化)は、終声のㄴと初声のㄴの連続と、終声のㄴと初声のㄴの連続は、共に[ㄴ+ㄴ]と発音されるというものである。例えば, 연락〈連絡〉は[열락]と, 설날(正月)は[설랄]とそれぞれ発音されるという具合である。

【表2】によってこの様相を示せば：

	口音	鼻音	流音
唇音	ㅍ [p]	ㅁ [m]	
歯音	ㅌ [t]	ㄴ [n] → ㄹ [l]	
軟口蓋音	ㄱ [k]	ㅇ [ŋ]	

同様な音の変化は、英語にもみられる。否定の意味を持つ接頭辞 in- が r または l で始まる単語につくとき、in- は、ir- または il- と書かれ、また文字通りに発音される。例えば、in- + regular → irregular や、in- + legal → illegal といった具合である。

ここまで述べてきたことからわかるように、【表 2】は、発音の変化を覚えるのに非常に役に立つものである。これを簡略化して：

ㅍ	ㅁ	
ㅌ	ㄴ	ㄹ
ㄱ	ㅇ	

と学生に何回も書かせて覚えさせることも、指導法の 1 つになりうるであろう。

11) 用言の子音語幹における語尾、接尾辞（先語末語尾）の濃音化とは、ㅍやㄴが語幹末音である場合に、後続する語尾や接尾辞の初声の平音が濃音化するというものである。例えば，안다（抱く）は[안따]，안고（抱いて）は[안꼬]，안겠다（抱く）は[안켄따]というように発音される。

6) の濃音化が、すべての単語において起こるものであったのに対して、この 11) の濃音化は、単語が用言であるというが事前にわかっていなければならぬので、高校生にとっては非常に難しいものである。

例えば、体言의 신고（申告）の場合は濃音化が起こらないが、用言의 신고（履いて）の場合は、[신꼬]と濃音化が起こるわけである。この場合の濃音化の可否は、事前にその単語が用言であるかどうかという知識を要求するので、語彙力のない高校生にとっては判別がほぼ不可能である。

12) [n]挿入規則（リエーゾン）は、以下の 3 つの条件がそろった場合に

起こりうる：

- a) 合成語または 2 つの単語が連続して発音される
- b) 先行する要素（単語）が終声を持つ
- c) 後続要素（単語）が[i]または[j]で始まる

例えば, 십육만〈十六万〉は[심늬만], 무슨 일 (何かのこと) は[무슨닐]といった具合である。ただし, リエーゾンが起こるかどうかについては辻野(2014, 2016)において述べられているように, 音声的環境, 語種, 社会言語学的な要因などもかかわって規範から逸脱する傾向があり, 注意深く取り扱う必要がある。

なお, ここでリエーゾンという術語は, 菅野他(2007: 51)に従ったものである。フランス語では, 単独に読む場合に発音されない語末の子音字が, 母音で始まる単語が後続した場合に, 発音されるようになる現象であるが, 韓国語の場合は, リエーゾンの際に発音される [n] 音が表記されないという違いがある。

さて, 以上あげた 12 項目は, 1 学期の中間試験範囲を, 菅野監修(2015)の第 21 課としたため, そこまでの範囲では取り扱われなかった, 発音に関してさらに注意すべき事項が 8 項目ある。以下, これらについて述べてみることにする。

第 1 に, “口蓋音化”である。これは, 終声字의, ㅁ の後に, 助詞や接尾辞の-이がついた場合, 単純に連音化して, それぞれ[디], [ㅁ티/티]と発音されるのではなく, 口蓋化して, それぞれ[지], [ㅁ치/치]と発音されるものである。例えば, 굳이 (固く) は[구지]と, 같이 (一緒に) は[갈치/가치]と発音される。

ここで, 같이という単語は, 教室活動においてよく使われる基本単語であるので, 高校生であってもその発音に習熟する必要があると思われる。

第 2 に, “鼻音, 流音+ㅎの発音”である。この場合, 終声の鼻音や流音は連音化し初声として発音され, ㅎは極めて弱化して日本語話者の耳にはほとんど聞こえない。例えば, 담화〈談話〉→[다파], 전화〈電話〉→[저파],

무궁화〈無窮花〉→[무궁와], 설화〈說話〉→[서와]という具合である。

この現象は、コミュニケーションな言語活動を重視する立場から言えば、欠かすことのできない学習事項である。韓国語母語話者の意識としては、この場合のㅅを発音しているという意識があるであろうが、日本語母語話者の耳にはほとんど聞こえない以上、会話を重視する授業においては、高校生対象であっても積極的に教授すべきである。

第3に、“単語が連続して発音されるとき終声の発音”である。これは、場所を表す名詞のうち、母音で始まる위(上)や안(中)が名詞に後続した場合に起こる現象である。

つまり、名詞に例えば、助詞の-이(〜が)が付いた場合には、単に連音化して発音されるのであるが、위(上)や안(中)が名詞に後続する場合には、その名詞が単独で発音された終声の発音が、後続する初声として発音されるわけである。

よって、꽃이(花が)は[꼇치/꼬치]と発音されるが、꽃 위(花の上)は[꼬뒤]と発音されるし、부엌이(台所は)は[부엌키/부어키]と発音されるが、부엌 안(台所の中)は[부어간]と発音される。

同様な例として、못이(釘が)は[모시]と発音されるが、못 읽다(読めない)は[모딕따], またはリエーションが起こって[몬딕따]と発音される。なお、この環境でリエーションが起こるかどうかについての調査に関しては、辻野(2016: 55-56)を参照されたい。

위(上), 안(中)や不可能を表す副詞의(は), 高等学校における韓国語学習において取り扱われうる単語であるので、ここで述べた発音現象は、高等学校の段階で避けて通ることができないものであると考えられる。

第4に、“漢字語における濃音化”である。これは、漢字語において、ㄷ終声の後の初声がㄷ, ㅌ, ㅍであるとき、これらの初声は濃音化するというものである。例えば, 발달〈発達〉は[발딸], 발생〈発生〉は[발뽕], 발전〈発展〉は[발쩍]とそれぞれ発音される。ただし、後続の初声ㅍ, ㅌ, ㄷである場合には濃音化が起こらないことを学生に留意させるべきである。つまり, 발각〈発覚〉は*[발각], 발병〈発病〉は*[발뽕]とそれぞれ濃音化が起こらない。なお, 발병(足の病)が[발뽕]と濃音化することについては、第5において述べる合成語における濃音化による。

さらに、この濃音化は、一単語内部において起こり、接尾辞においては起こらないことがありうることに注意しなくてはならない。つまり、일전〈一戰〉は[일쩨]と濃音化が起こるが、한일전〈韓日戰〉では濃音化が起こらないのである。

一方, 물가〈物価〉→[물까], 사건〈事件〉→[사깐], 문법〈文法〉→[문뻬], 한자〈漢字〉→[한짜], 학생증〈学生証〉→[학생쥬]といった, 漢字語の2文字目以降における例外的な濃音化は, 規則性があるものではないので, 該当する単語が出てくるたびに教えるしかない。高等学校での学習範囲を超えたものであり, 高等学校において神経質になって教えることは望ましくない。

第5は, “合成語における濃音化と사이시옷”である。비빔밥(ビビンパ)の発音が[비빔뻬]と濃音化が起こることについては, “合成語における濃音化が起こっている”と説明せざるを得ないであろう。ところが, 콩밥(豆ごはん)の場合は*[콩뻬]とはならない。同様に, 물고기(魚)の場合は[물꼬기]と濃音化が起こるのに対し, 불고기(プルゴギ)の場合は, *[불꼬기]とはならない。

この様相に関しては, 合成語における先行語と後続語の間の意味的な接続関係を考えなくてはならないのであろうが, 高等学校においてそこまで詳しい説明をする必要も時間的余裕もないであろう。おそらく高等学校の授業で扱うことになる비빔밥(ビビンパ)や불고기(プルゴギ)の発音については, “合成語においては濃音化が起こることも起こらないこともある”程度の説明をしておくしかないであろう。

また, 사이시옷に関しては, 가(へり)が用いられた単語で:

길(道) + 가(へり) → 길가[길까](道端)

바다(海) + 가(へり) → 마닷가(海辺)

というように, 先行語に終声がある場合には合成語における濃音化が起こるが, 先行語に終声がない場合には사이시옷が入りうるという説明が可能である。しかしながら, 高等学校の授業において, 単語の内部構成まで説明することは難しいので, 사이시옷に関する説明を行うことは避けたほうがよいであろう。

なお, 사이시옷に関しては, 漢字語同士の合成語の場合や, 後続語が激音で始まっている場合には起こらない。例えば:

수도〈水道〉+ 관〈管〉→ 수고관〈水道管〉*수돗관

ただし, 수도〈水道〉+ 물(みず)→ 수돗물

뒤(後)+ 풀이(解くこと)→ 뒤풀이(打ち上げ)*뒷풀이

ただし, 뒤(後)+ 받침(下支え)→ 뒷받침(後押し)

よって, 사이시옷に関して, 高校生に中途半端な説明を行うと, *수돗관, *뒷풀이といった, 過剰適用を行う可能性がある。この問題は, 大学でじっくりと説明すべき事項なのである。

第6は, “終声の口音+初声のㄴの発音”である。この場合, 初声のㄴが濃音化するのはもちろんであるが, 終声の口音のほうも微妙に発音が変化する。その様相は以下のとおりである:

[ㅃ p] + ㄴ → [p²s]

[ㅌ t] + ㄴ → [s²s]

[ㄱ k] + ㄴ → [k²s]

ここで, [p], [k]という内破音(implosive)は, それぞれ[p], [k]と外破音(explosive)として発音される。内破音の時には, 聞こえがほとんどなかったのが, 外破音になることによって, 聞こえが増している。また, [t]は逆行同化によって[s]と発音される。

例えば, 접시(皿) [tɕɔp²ʃi], 흑시(或是)(あるいは) [hok²ʃi], 햇살(日ざし) [hɛs²sal]などがあげられる。このうち, 外破音の発音については, 自然に発音していれば外破音になると思われるので, 特別な指導は必要ないと思われる。その一方, [t]が逆行同化によって[s]と発音されることについては, 高等学校で接する可能性が大きい있습니다があり, これを[is²sumnida] (あるいは速い発音では[i²sumnida])と発音させ, [it²sumnida]と窮屈に発音させないようにする指導が必要である。

第7は, “ㄷ終声字の音価”にかかわる問題である。ㄷ終声字の音価に

関しては，後続音によって，以下のように様々な異音が現れうる：

【表 4】

終声字	異音	後続音	例
ㅎ	[s ^ʔ /ʔ]	ハ	중습니다
	[n]	ㄴ	중네
	[th/h]	ㄱ, ㄷ, ㅌ	중거든, 중더라, 중지
	[Ø]	母音	중은

以上のように，異音が多いことがわかるが，この様相を，高校生に簡単に教えることは難しい。本稿では，速い発音に関しての説明になりうる，中西(2016：19)の説明法を提示しておくことにする：

ㅎパッチムの終声は後続音と同じになる。

但し，後続音が激音化し得る子音の場合は，ㅎの初声化に伴ってそれらの子音が激音化する。

第 8 に，“初声のㄷが終声ㄴへと逆行同化して[ㄴ]と発音される場合”である。これは，先の 10)で述べた，終声のㄷと初声のㄴの連続が，順行同化して初声がㄷと発音される（例：연락〈連絡〉[열락]）とは同化の方向性が反対であるので注意すべきである。

この逆行同化は，菅野(2017：20-21)によれば，漢字語語幹（2 字）＋接尾辞（1 字）において起こるとされている。例えば，생산량〈生産量〉→[생산량], 자본론〈資本論〉→[자본론]といった具合である。こういった例は，高等学校で接することになる可能性はあまりないので，無理に教える必要はないであろう。

だが，高校生も知っているであろう신 라면（辛ラーメン）の発音はどうなるのだろうか。姜奉植(2016：46)によれば，[신나면]となっている。신라〈新羅〉→[실라]と発音されることと比較して，興味深い。

さて，韓国語専攻においては，1 週間に 90 分授業を 6 コマ行っているの
で，週当たりの学習時間数は 9 時間である。中間試験までに 7 週間行う
ので，63 時間をかけて，先にあげた 12 項目の文字と発音に関する事項を教

えることになる。もちろん、大学に入ってから韓国語を初めて学ぶことを前提としているので、この 63 時間は、ゼロからじっくりと時間をかけたものである。

全体的な平均点は 90 点ぐらいになっており、学習事項の定着率は非常に高い。試験の出来具合は、大学から学び始めたものと高等学校での既修者の違いはほとんど見られない。もしくは、違いが出ないように試験を行っている。2 年次からの韓国への 1 年間の交換留学（現在年間約 15 名が交換留学する）に際して、韓国語の成績にあえて差がつかないように配慮しているからである。

以上のように、韓国語専攻 1 年生の中間試験までの学習事項は、文字と発音、及び発音の変化の規則に関するものがほとんどであり、高等学校で韓国語既習の入学者にとっては、韓国語でコミュニケーション活動を行わないきわめて「面白くない」授業であると思われる。

だが、韓国語でのコミュニケーション活動に関しては、神田外語大学には、MULC (multi-lingual communication center) という、英語以外の 7 つの地域言語（中国語、韓国語、ベトナム語、タイ語、インドネシア語、スペイン語、ブラジル・ポルトガル語）で自由会話ができるスペースが設けられている。韓国語専攻の学生は、昼休み・空き時間・授業終了後に、この MULC の「韓国語エリア」に行けば、韓国語母語話者の教員（週 5 コマ分）もしくは韓国からの交換留学生と自由会話をおこなったり、韓国映画や K-POP の DVD の視聴ができたりするようになっている。いわば、「疑似留学空間」なのである。高校で韓国語を学んだ既習の 1 年次の学生は、大学から韓国語を学び始めた学生よりも、MULC を積極的に利用する者が多いようである。「生きた韓国語」に思う存分触れることができる場であるからである。

かくして、学生諸君は、規則に縛られた「死んだ言葉」を教える授業と、パンマルが飛び交う「生きた言葉」の空間という、2 つの場を経験しつつ、韓国語を学ぶことになるのである。

神田外語大学アジア言語学科韓国語専攻においては、MULC といういわば「保険」がかけられているからこそ、授業研究などを行わない旧来式の規則重視の教育を行うことができるのであり、教員はその環境に甘んじて、楽ができていたのである。

最後に、本稿では触れなかったが、高校生に韓国語を教えるにあたって、

彼らにどのような“動機づけ”を行うかという問題がある。言語学習において、モチベーションの有無は、教室での授業運営がうまくいくかにもかかわってくる。K-POP だけで彼らの歓心を買おうとするのも、ある意味あざといやり方ではないかと思われる。“なぜ韓国語を勉強するのか”という問題に、学生が本格的に向き合えるような議論が、韓国語教育関係者の間で深まっていくことが望まれる。その議論の萌芽は、李貞榮他(2015)、山下(2017)に見えている。

《付録（正解記入済み）》

韓国語基礎 I 中間試験

【範囲：『朝鮮語を学ぼう・改訂版』第21課まで】

2017. 6. 8.（浜之上担当）

氏名：_____ 評点：_____

I. 以下の韓国語の単語や表現を発音されるとおりに、ハングルで書いてください。ただし、話し言葉での速い発音も正解とします。《46 点満点. 1 つ間違いで 1 点減点.》

1 손은(手は) _____ 소는 _____ 2 앞(前) _____ 압 _____

3 발(畑) _____ 밭 _____ 4 낮(昼) _____ 날 _____

5 꽃(花) _____ 끝 _____ 6 부엌(台所) _____ 부엌 _____

7 합격(合格) _____ 합격 _____ 8 늦가을(晩秋) _____ 늦가을 _____

9 있다(ある, いる) _____ 인따 _____ 10 복도(ろうか) _____ 복도 _____

11 안다(抱く) _____ 안따 _____ 12 남습니다(余ります) _____ 남습니다 _____

13 닭(にわとり) _____ 닭 _____ 14 값(ねだん) _____ 값 _____

- 15 샀 (賃金) 삭 16 읽다 (読む) 익따
- 17 젊다 (若い) 점따 18 닭은 (にわとりは) 달근
- 19 값은 (ねだんは) 갑쓴 20 샀은 (賃金は) 삭쓴
- 21 여덟 (8つ) 여덜 22 앉다 (座る) 안따
- 23 핥다 (なめる) 할따 24 밟다 (踏む) 밥따
- 25 읊다 (詠ずる) 읍따 26 이웃나라 (隣国) 이운나라
- 27 집만 (家だけ) 짐만 28 책만 (本だけ) 챙만
- 29 값만 (ねだんだけ) 감만 30 무릎만 (ひざだけ) 무릅만
- 31 발만 (畑だけ) 반만 32 낮만 (昼だけ) 난만
- 33 꽃만 (花だけ) 꼰만 34 부엌만 (台所だけ) 부엌만
- 35 밖만 (外だけ) 방만 36 닭만 (にわとりだけ) 당만
- 37 입학 (入学) 입팍/이팍 38 따뜻하다 (暖かい) 따뜻타다/따뜨타다
- 39 축하 (祝賀) 축카/추카 40 좋다 (よい) 죤타/조타
- 41 끊다 (絶つ) 끈타 42 끊습니다 (絶ちます) 끈씼니다
- 43 정리 (整理) 정니 44 십리 (十里) 십니
- 45 법률 (法律) 범률 46 설날 (元日) 설랄

47 연락 (連絡) 연락 48 계산 (計算) 계산

49 의의의 (意義の) 의이에/의의에 50 십육만 (十六万) 십륙만

Ⅱ. 以下の日本語の文章を韓国語に訳しなさい。なお、用言については基本形を示しています。《2点×12=24点》

1. これは帽子(모자)です。

이것은 모자입니다.

2. 帽子はあれです。

모자는 저것입니다.

3. お釜(솥)は台所(부엌)にあります。

솥은 부엌에 있습니다.

4. その子ども(아이)は笑い(웃다)ます。

그 아이는 웃습니다.

5. この家(집)は大きい(크다)です。

이 집은 큼니다.

6. 私は映画(영화)を見(보다)ます。

저는 영화를 봅니다.

7. その牛(소)だけ大きい(크다)です。

그 소만 큼니다.

8. 私はごはん(밥)を食べ(먹다)ます。

저는 밥을 먹습니다.

9. 私はごはんも食べます。

저는 밥도 먹습니다.

10. 私は雑誌(잡지)だけ読み(읽다)ます。

저는 잡지만 읽습니다.

11. 雑誌はここにだけあります。

잡지는 여기에만 있습니다.

12. 韓国(한국)の新聞(신문)を見ます。

한국(의) 신문을 봅니다.

Ⅲ. 以下の説明が正しければ○を、間違っていれば×を書きなさい。《0.5点×20=10点》

1. 韓国語の母音「一」は日本語の「ウ」という母音とまったく同じ発音である。
2. 韓国語の「시」と日本語の「シ」はほぼ同じ発音である。
3. 平音字に1画画数を加えると、激音字ができる場合が多い。
4. ㅇという子音字は、下から右回りで円を描いて書く。
5. 韓国語のすべての平音は、語中において母音の後で有声音で発音される。
6. 激音は無声音だが、語中で有声音になる場合がある。
7. 韓国語の終声の位置の文字は7つの子音の文字しかない。
8. 韓国語の母語話者は、日本語の清音と濁音の聞き分けを容易に行なう。
9. 日本語の「ン」という音は、鼻音性をもった音とすることができる。
10. 「ㄴ」の発音は、3通りあるとすることができる。
11. 日本語の単母音は5つで、韓国語の単母音は原則的に8つであるが若い世代では7つで発音されている。
12. 韓国語のすべての助詞は母音語幹と子音語幹につく場合で、形が異なる。
13. 日本語の「ですます体」にあたる丁寧な言い方を上称形という。
14. 韓国語の助詞「-으」は省略することができる場合がある。
15. 韓国語の動詞と形容詞では基本形の最後の文字が異なる。
16. 2文字の終声字を持つ単語は、単独で読まれたとき前の文字を発音する場合と、後ろの文字を発音する場合がある。
17. 韓国語の語順は英語の語順に近い。
18. 韓国語の文章では、分かち書きがなされる。
19. 韓国語の初声の位置での子音の数は14個である。
20. 「에」と「애」の発音の区別は、若い世代でも厳密に区別されて発音されている。

- 1 (×) 2 (○) 3 (○) 4 (×) 5 (×) 6 (×)
 7 (×) 8 (×) 9 (○) 10 (○) 11 (○) 12 (×)
 13 (○) 14 (○) 15 (×) 16 (○) 17 (×) 18 (○)
 19 (×) 20 (×)

IV. これから韓国語の単語を発音しますので，書き取りをください。
《1点×20＝20点》

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 치마 | 2. 찌꺼기 |
| 3. 토끼 | 4. 집 |
| 5. 끝 | 6. 국 |
| 7. 연기 | 8. 장마 |
| 9. 물리 | 10. 배 |
| 11. 얘기 | 12. 게 |
| 13. 예약 | 14. 사과 |
| 15. 원 | 16. 회화 (회화) |
| 17. 쥐 | 18. 왜 |
| 19. 궤도 (궤도) | 20. 의자 |

《参考文献》

菅野裕臣(2017)『朝鮮漢字音 入門と発展』三修社

菅野裕臣，浜之上幸，權容環(2007)『朝鮮語の入門・改訂版』白水社

菅野裕臣監修(2015)『朝鮮語を学ぼう・改訂版』三修社

姜奉植(2016)「日本人韓国語学習者の為の韓国語発音変化の諸規則」『リベラル・アーツ』10号

高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク西日本ブロック(2009)『新・好きやねんハングルⅠ』白帝社

- 趙義成(2007)「文字と発音の指導法」『朝鮮語教育論講座第1巻』くろしお出版
- 辻野裕紀(2014)「現代朝鮮語における〈n 挿入〉の実現実態について(1)—若年ソウル方言話者を対象に一」『朝鮮学報』232号
- 辻野裕紀(2016)「現代朝鮮語における〈n 挿入〉の実現実態について(2)—若年ソウル方言話者を対象に一」『朝鮮学報』240号
- 中西恭子(2016)「ㄹパッチムの音価と表記に関する一考察—朝鮮語教育の視点から—」『朝鮮学報』240号
- 浜之上幸(2012)『韓国語入門Ⅰ』放送大学教育振興会
- 浜之上幸(2016)『韓国語Ⅰ』放送大学教育振興会
- 山下誠(2017)「高等学校における多言語の学びに向けて」平高史也，木村護郎クリストフ編『多言語主義社会に向けて』くろしお出版
- 前田真彦(2013)『韓国語発音クリニック』白水社
- 李貞榮，李ユミ，今給黎俊伸，遠藤正承，林久美子，方政雄，松浦利貞，李智子(2015)『韓国語・朝鮮語教育を拓こう—一定時制高校からの発信—』白帝社